

(様式1)

## 令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国中学校
校長名	渋谷 俊昌

### 1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全学年全教科において、平均正答率が全国平均を上回っている。</li><li>・全学年全教科の全ての観点において、目標値を上回っている。</li><li>・標準スコアによる経年比較において、2年数学、3年、社会、数学、理科、英語において、前年度を上回り、成長している様子が窺える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・見通しと振り返りを生かした授業の実施 授業の最初に目標を生徒にしっかりと提示したり、授業の最後に振り返りを生徒自身に行わせたりすることで、前時と本時、次時へのつながりを意識させ、主体的な学習を実現する。</li><li>・「見方・考え方」を働かせた授業改善 各教科で基本的な知識・技能の徹底を図った上で、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる場面を積極的に取り入れていく必要がある。そして、「見方・考え方」を働かせた深い学びを実現する。</li></ul>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・平日の家庭学習の時間について、2時間以上学習している生徒の割合が、全ての学年で全国平均を上回っている。</li><li>・学習に対する理解度は高く、学習に関する意識調査でも概ね肯定的な意見が多い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭学習について、しっかりと学習している生徒が多い一方、「全くしない」と回答する生徒も少なからずいる。今後は宿題の量を増やす等、家庭学習の習慣がほとんどない生徒に対する手立てを考えていく必要がある。</li><li>・「学んだことが将来、社会に出たときに役に立つ」という質問項目に対する肯定的意見が少ない。学習に対する意欲関心を高める工夫を、各教科で行う必要がある。</li></ul>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・放課後学習教室への積極的な参加</li><li>・各種検定への積極的な受験</li><li>・朝学習等での振り返りシートの活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・既習事項の定着確認と繰り返しの学習 基礎的な知識・技能の定着のためには、通常の授業だけでなく、放課後学習や家庭学習との連動を図っていく必要がある。各教科で学んだ内容について、授業で単元テストや小テストで定着の確認を行う。そして、朝学習や放課後学習で同じ内容を取り組ませ、何度も繰り返し学習することで定着を図っていききたい。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 朝学習や放課後学習の充実

DE層を引き上げることを課題としているため、全ての生徒に基礎・基本を確実に定着させていきたい。そのために、授業内で前時までの既習事項を確認する時間を確保する。また、定期的に小テストや単元テストを実施し、単元ごとの定着を確認し、定着が不十分な箇所を繰り返し学習していく。また、朝学習や放課後学習で振り返りシート等を活用し、既習事項の定着を図っていく。今年度新設した両中アカデミーを活用し、学習への意欲を高めながら、きめ細やかな指導を目指す。

また、年4回の定期考査とは別に校内実力テストを実施する。3年生は年3回、1, 2年生は年2回実施（令和2年度は休校のため回数減）し、国や都、区の学力調査の分析とともに学習に定着度や理解度を測り、DE層の底上げを行っていく。

### (2) 家庭学習時間の確保

意識調査の結果から家庭学習時間の確保に課題がある。また、宿題や課題が少ないと感じている生徒も多い。そのため、振り返りシート等を活用し、宿題や課題の量や質を工夫していく。具体的には、様々な学力調査の前には、関連した問題や既習事項の問題等を課題として取り組めるように提示していく。内容についても、「知識・技能」の習得はもちろん、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力・人間性」等の観点など幅広く学べるように、課題についても意識していきたい。また、定期考査に向けて本校では3週間前から計画を立てさせ、余裕をもって計画的に学習させていく。今年度も引き続き、主体的に学習に取り組む家庭学習の時間をしっかりと確保できるようにしていきたい。

### (3) 「見方・考え方」を働かせた授業改善と評価の工夫（新学習指導要領への対応）

今年度の本校の研修テーマは「見方・考え方をはたらかせる授業～目標設定や評価の工夫～」である。各教科等における習得・活用・探求という学びの過程の中で「見方・考え方」は育まれ、そして各教科の授業も学習の中で働くだけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするとされている。その「見方・考え方」を支えるのが、資質・能力三つの柱「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」である。授業において、基礎的な知識・技能の習得（何を理解して何を学ばせるか）を徹底し、理解していることをどう使うかなど学びの工夫（どのように学ばせるか）を行い、学んだことを実生活に生かそうとする意欲や態度（何ができるようになり、どのように社会と関わっていこうとするのか）の育成を目指し、主体的・対話的で深い学びの実践を行いながら、「見方・考え方」を働かせた授業改善と評価の工夫を行っていく。

## 3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ DE層を20%以内に削減
- ・ 放課後学習と家庭学習時間の充実
- ・ 授業アンケートの肯定的回答の増加